



猟友会安蘇支部 新合分会

ほしの ゆうじ

星野 祐治 さん

元々シカの角やジビエ（シカやイノシシなどの野生鳥獣肉のこと）に興味があったこと、農業を営む中で有害鳥獣による被害が増えてきたので、その対策も兼ねてできることから、狩猟を始めてみようと思い、わな猟の免許を取りました。

狩猟免許には、猟法ごとに、散弾銃、ライフル銃を扱う第一種銃猟免許、空気銃を扱う第二種銃猟免許、わな猟免許、網猟免許の4種類に分かれており、狩猟免許試験は知識試験、適性試験、技能試験の3種類からなります。知識試験は講習会があるので、受講すればほとんどの方が合格できると思います。知識試験、技能試験は70%以上の得点、適性試験は全ての項目について基準を満たせば合格です。この辺りだと、試験も講習会も堀米町にある安蘇庁舎で実施されるので、近くていいですよ。

わな猟は、いわゆる個人戦のようなところがあり、個人の技術・技量で捕獲できるかどうかが決まってきました。その

ため、自分が長年やってきたコツや罠のポイントなどを他人には教えないものだと思っていたことがありました。しかし、安蘇支部の場合は、聞けば何でも教えてくれる方ばかりで、そういった方の現場に同行させてもらったり、色々と教わったりしながら免許を取ることができました。ありがたかったですね。

わな猟で使用する罠は、市販のものだけではなく、自分で作った罠も使用します。また、餌についても、農家の方や企業の方からご提供いただいた米ぬかや酒粕にアルコール類を混ぜるなど、試行錯誤をしています。その罠を仕掛けて、掛からなければ改良し、また仕掛けることを繰り返します。罠を設置してからは「今度は掛かっているかな？」と、次の見回りまでずっとソワソワしてしまいます。掛かっているかと悔しいのですが、簡単には捕れないところがまた面白いんですよね。それと同時に、罠に掛かった動物には最大の敬意を払い、苦しまず安全に止め刺しをすることを大切にしています。止め刺し後の動物を引きだすときには、その重さに無事捕獲できたという達成感でわな猟の醍醐味を感じています。



# 猟友会インタビュー



猟友会安蘇支部 氷室分会

ひろせ さゆり

廣瀬 さゆり さん

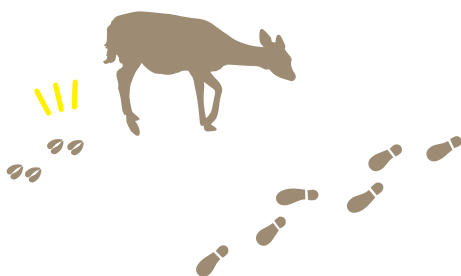
野生動物に荒らされた親族の畑を見た際に、悔しい、憎いと思ったことが、初めて狩猟に興味を持ったきっかけだったかもしれません。また、散歩の途中に猟師の方が野生動物を仕留めているところに鉢合わせしたことや、猟師の方とお話をするうちに、だんだんと私もやってみたいという気持ちが強くなり、令和4年にわな猟免許を取得し、そのまま猟友会安蘇支部に入会しました。

経験を積むにつれ、足跡を確認したり、獣独特の臭いなどを感じたりして、この辺なら掛かりそうだなと勘を働かせて罠の設置ができるようになりました。初めのうちは箱罠を使っていたのですが、今ではくり罠を使って、シカなどを捕獲しています。罠を設置することで少しずつ畑も荒らされなくなりました。

昨年、私が仕掛けたくり罠に70kg超えの大きな雄シカが掛かったことがありました。暴れることなく大人しく座っていたのですが、近寄ると想像以上に角が大きく、

# 密着

## 有害鳥獣の捕獲まで ～わな猟編～



1  
地域の方への聞き込みや足跡などの痕跡から、罠を仕掛ける場所を決定



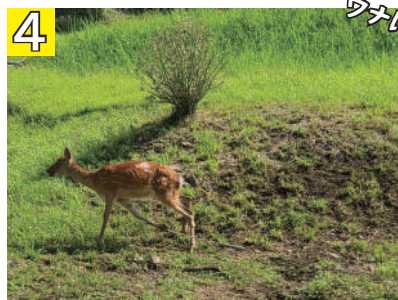
2  
頭数や有害鳥獣の通り道を推測して罠を仕掛ける



3  
定期的に罠を仕掛けた場所の見回りをする



5  
止め刺しを行う



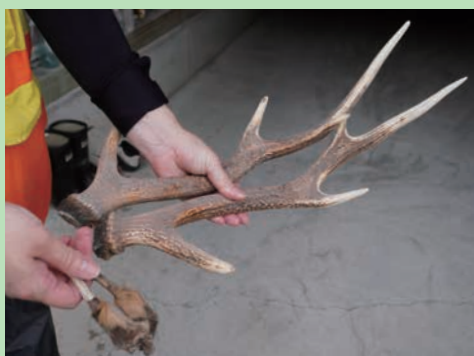
4  
罠に掛かった野生動物の状態や周囲の状況を見極め、リスクの確認と対策を考える



ワナにかかった!

まずし、狩猟に興味がある人に色々と聞かれるのもうれしいです。10歳くらいの子に、自分も狩猟をやってみたいと言われた時もうれしかったですね。銃猟免許は20歳からだから、あと10年後に一緒に回ろうね、なんて話したり。

こうやって狩猟に興味を持ってくれる人が今後増えて、地域全体で有害鳥獣の対策ができるようになれば良いと思います。



また、有害鳥獣の駆除に携わる中で、地域の方々の交流もだんだんと増えました。捕獲した際に「すごいね」と褒められるとさらにやる気が出ます。

威圧感があつたのをよく覚えています。

また、罠にはアナグマやタヌキが掛かることもあります。罠を外す際、力いっぱい逃げようとするので、衝突されないように離れていないと危険ですし、小さくても力がとても強いので、押さえつけて罠を外すだけでも全身が筋肉痛になります。でも私自身、好きでやっていることなので、そういった怖さや痛みも楽しみに変えて活動をしています。